「夢舞台 本番楽しみ」
「しっかり力出し切る」
自転車五輪代表の垣田会見

「小さい頃からの夢がオリンピック出場。代表選手に選ばれてうれしく（本番が）楽しみ」。パリ五輪の自転車女子トラックで2種目に出場する松山学院高出の垣田真穂（19）＝早大。29日、静岡県伊豆市の日本競輪選手養成所であった記者会見で、初の五輪切符を獲得した喜びを語った。（1面参照）

出場種目は4000㍍団体追い抜き（4人）とマディソン（2人）。団体追い抜きメンバーは他に、池田瑞紀（早大）、内野艶和（日本競輪選手会）、梶原悠未（TEAM Yumi）。2人一組で走るマディソンは内野とペアを組む。

内野は、同じ福岡県出身の垣田について「怖い物知らずがレースでいい方向へ出ている。年下だが、尊敬している」と評した。

中距離担当のダニエル・ギジガー・ヘッドコーチは「マディソンは表彰台に立つポテンシャルがある。団体追い抜きは8位以内を狙っているが、ベストを尽くせばメダルを獲得できる」と自信を見せた。（渡部竜太郎）

「オリンピックで最高の走りをしたい」と力強く話す垣田真穂＝29日、静岡県伊豆市

垣田真穂の一問一答は次の通り。

―初めての五輪で女子4000㍍団体追い抜きとマディソンの2種目に出場する。

団体追い抜きは五輪出場枠を獲得できるぎりぎりの10枠目だった。走行ラインなど細かい部分を直し、8位以内を目指す。マディソンはネーションズカップでもいい結果を出すことができた。しっかりと力を出し切り、（ペアを組む内野）艶和さんと頑張りたい。

―3歳年上の内野はどういう存在か。

本当に強くてかっこいい先輩。いつも頼ってばかりで、たくさん助けてくれる。自分がもっとよく走れるようになったら、結果が出ると思う。

―松山学院高時代は多くの全国タイトルを獲得した。後輩たちも刺激を受けている。

松山学院は強豪校で、自分もここだったら全国優勝できると思い入学した。私も（後輩たちに）刺激をもらっている。自転車は楽しいことよりも、きついことの方が多いが、感謝の気持ちを持って頑張ってほしい。

―本番まで残り2カ月。個人的に強化したいことは。

他の選手に比べると、レース経験が少ない。もっとレースの動画を見て学びたい。持久力やスプリント力を伸ばしていく。

垣田真穂（かきた・まほ）プロフィル

2004年12月14日生まれ（19歳）北九州市出身

- 松山学院高→早大
- 身長167㌢
- 母親が味付けし、父親が揚げる唐揚げが大好物
- 好きな言葉は「努力は実る」

主な戦績

松山学院高時代
トラック、ロード両種目で全国総体など国内タイトルを多数獲得

2022年6月 ジュニアアジア選手権トラック
2冠
- ポイントレース
- オムニアム

8月 ジュニア世界選手権トラック
- 女子マディソン2位

日本代表入り以降（トラック種目のみ）

23年8月 世界選手権
- 4000㍍団体追い抜き11位
- エリミネーション13位

24年2月 アジア選手権
3冠
- 4000㍍団体追い抜き
- 3000㍍個人追い抜き
- マディソン

※団体追い抜きは日本記録を更新し連覇

「先輩に続きたい」
松山学院 部員らエール

垣田の母校、松山学院高自転車部の後輩たちは先輩にエールを送り、「自分たちも続きたい」と刺激を受けている。

垣田は高校時代、全国総体や全国選抜大会で数々のタイトルを獲得し、全国屈指のチームをけん引した。

学生寮で同部屋だった3年近田ちひろさん（17）は「真穂さんは笑顔が絶えず、みんなに優しかった」。垣田が昨春卒業する際に「自転車を楽しむことを忘れず、周りの人に感謝しながら頑張って」という言葉をもらった。パリの大舞台に立つことを「身近な先輩なので、自分のことのようにうれしい」と喜んだ。

3年木綿峻介さん（17）は「力強くて記録も速く、当時からすごかった」と振り返る。同じ場所で練習していた先輩が五輪代表となり、「自分も頑張れば、オリンピックに行ける」と刺激を受けている。

垣田は北九州市出身。五輪出場を目指し、強豪・松山学院高の門をたたいた。指導した鮫島浩二監督（41）は「（教え子が五輪に出場する）一翼を担えて、うれしさよりもほっとしている」と話し、「最終的には（次回以降の）オリンピックで金メダルを取る選手。パリはその足掛かりとし、あわよくば表彰台に立ってほしい」と期待した。（渡部竜太郎）

パリ五輪に出場する垣田真穂にエールを送る松山学院高自転車部の後輩たち
＝27日、松山市北久米町の同校

2024年5月30日（木）愛媛新聞掲載
（掲載許可番号：d20240530-06）